

IoT・AIセンター 2022年上半期の主な取り組み

崇城大学IoT・AIセンター

2022.9.7

1. メタ空間スタジオの完成

eスポーツ



2. 仮想空間デザインコンテストの開催

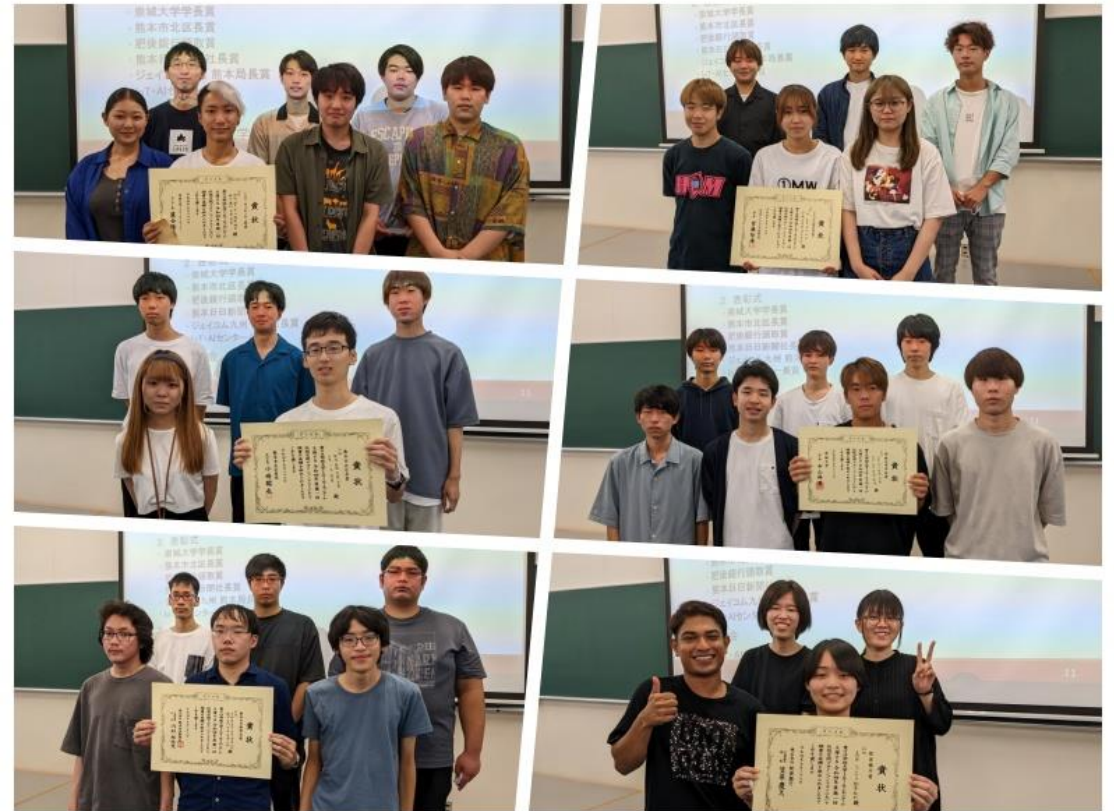
- メタ空間スタジオを利用
- 28チーム, 199人が参加



2. 仮想空間デザインコンテストの開催

• 6団体による表彰

- 崇城大学学長賞
- 肥後銀行頭取賞
- 熊本日日新聞社長賞
- 熊本市北区長賞
- ジェイコム九州熊本局長賞
- IoT・AIセンター長賞



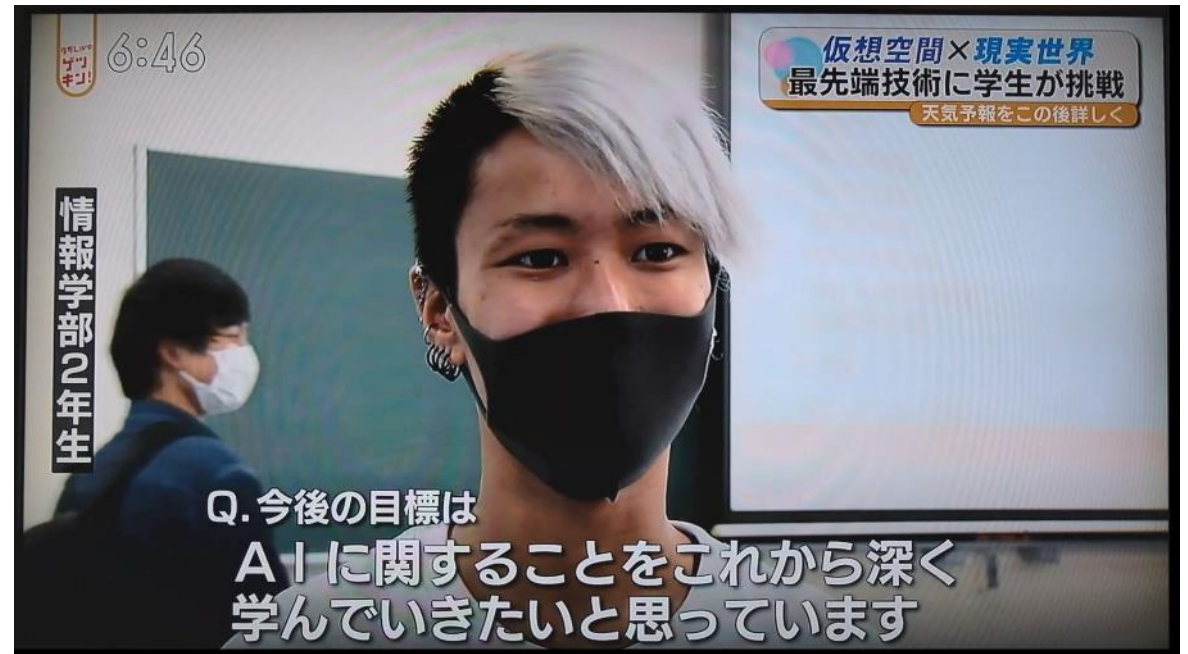
2. 仮想空間デザインコンテストの開催

- **メディア**に掲載
- RKKテレビ「ゲツキン！」



2. 仮想空間デザインコンテストの開催

- RKKテレビ「ゲツキン！」



2. 仮想空間デザインコンテストの開催

- ジェイコムニュース



2. 仮想空間デザインコンテストの開催

・熊本日日新聞朝刊

デジタルで彩る「四季」

仮想空間の演出競う
崇城大でコンテスト

インターネット上の仮想空間を演出する技術を競うコンテストが28日、熊本市西区の崇城大であり、学生たちが最新のデジタル技術

を駆使して「四季」をテーマに「没入感」の高い空間を作り上げた。ネット上で交流できる3次元の仮想空間「メタバース」



崇城大の学生たちが四季をテーマに仮想空間を演出したコンテスト
＝熊本市西区

「メタバース」が注目される中、崇城大IoT・AIセンターが、仮想空間を扱う技術向上を目的に初めて開いた。情報学部を中心に28チーム計約200人が出場した。センターは床が縦11・3メートル、横6・4メートルの長方形で、天井までの高さが7・2メートルの「メタ空間スタジオ」を用意。学生たちは専用機材を使って四方の壁に花見や風鈴、花火、紅葉、除夜の鐘など、四季を感じる写真や映像を投影し、演出の技術を競った。大学教員や銀行員、行政職員ら7人がストーリー性などを審査した。「熊本地震と四季」をテーマにした作品で上位に入った情報学部1年の永井健斗さんは「夏をイメージするために崩れた墓の写真を使うなど、地震と四季を結び付ける工夫が難しかった」と話していた。

(臼杵大介)

3. DXfromKumamotoの設立と DXシンポジウム2022の開催

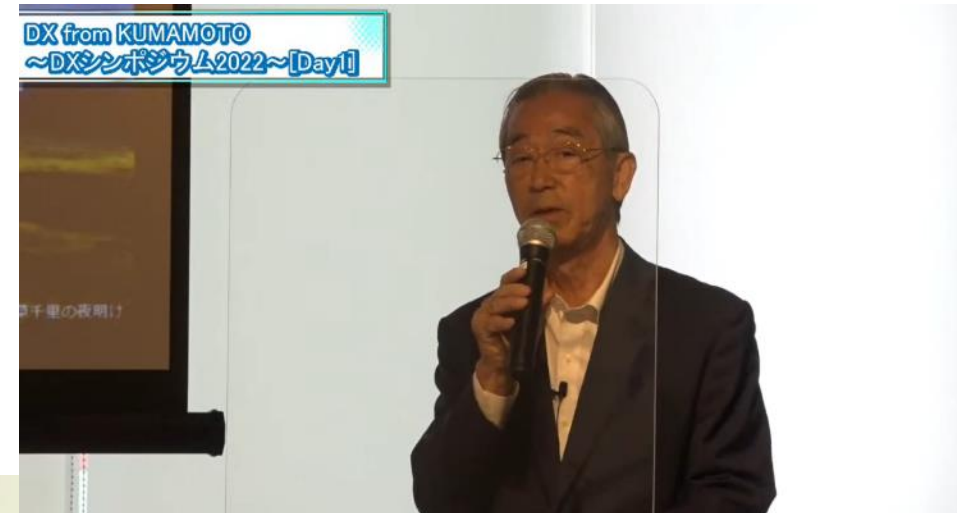
- IoT・AIセンター長が発起人となり，県内外から**11団体が集結**
 1. 総務省 九州総合通信局
 2. NTT西日本
 3. ソフトバンク
 4. NECソリューションイノベータ
 5. 肥後銀行
 6. 熊本日日新聞社
 7. KIS
 8. 九州テレコム振興センター
 9. 九州デジタルソリューションズ
 10. 一般社団法人SCBラボ
 11. 崇城大学IoT・AIセンター



DX from
KUMAMOTO

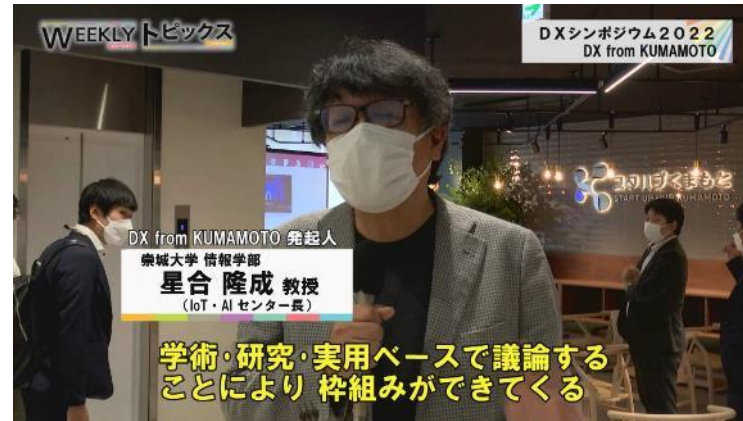
3. DXfromKumamotoの設立と DXシンポジウム2022の開催

- 7月23日・24日に開催
560人が参加（オンライン）
 - 県内外のDXの有識者が登壇
 - 中山学長
 - 大西市長
 - 森本総務省九州総通局部長
 - 塩谷NEC-SIフェロー
 - 星合センター長 ほか
- 登壇者 13名 産業界：8名
行政：3名 学術：2名



3. DXfromKumamotoの設立とDXシンポジウム2022の開催

- メディアに掲載
 - 熊本日日新聞
 - ジェイコム九州



J:COMニュース

SCB放送局学生スタッフがライブ配信を担当



熊本日日新聞朝刊

4. 見学・視察対応と模擬講義の実施

- 見学・視察
 - 一般70名（総務省・熊本県庁・肥後銀行など13社）
 - 高校生240名（熊本工業高校・大津高校・熊本西高・都城西高など）
- 模擬講義
 - 高校生向け実施



7月26日都城西高校

5. 学生の活躍

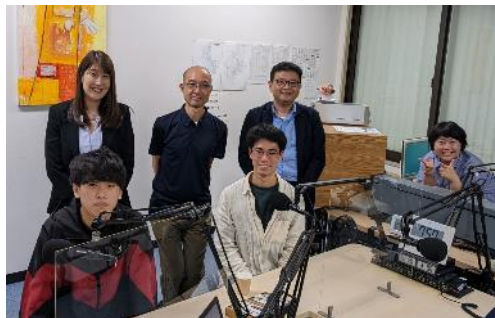
- SCB放送局

- 熊本市との共同プロジェクト：
小中学校向けに地域の
サプライチェーンを学ぶ講座を番組配信



7月13日熊本市内3小学校に生配信

- 防災ラジオドラマ制作プロジェクト：
SCB活動が注目され北海道新聞が取材
熊本シティエフエムやFM桐生で放送



6月9日シティエフエムで放送



5月28日北海道新聞朝刊 13

5. 学生の活躍

- SOJOプロジェクト（地域メディア応用）
学生の動画作品が高く評価され、九州・山口J:COMで放送

